

学校法人新潟総合学園
新潟医療福祉大学
ガバナンス・コード
＜第1版＞

2022年9月13日

学校法人新潟総合学園

目 次

第1章	私立大学の自主性・自律性（特色ある運営）の尊重	1
1-1	建学の精神	
1-2	教育と研究の目的（私立大学の使命）	
第2章	安定性・継続性（学校法人運営の基本）	4
2-1	理事会	
2-2	理事	
2-3	監事	
2-4	評議員会	
2-5	評議員	
第3章	教学ガバナンス（権限・役割の明確化）	8
3-1	学長	
3-2	総務会・大学院委員会	
3-3	教授会・研究科委員会	
第4章	公共性・信頼性（ステークホルダーとの関係）	9
4-1	学生に対して	
4-2	教職員等に対して	
4-3	社会に対して	
4-4	危機管理及び法令遵守	
第5章	透明性の確保（情報公開）	12
5-1	情報公開の充実	

本ガバナンス・コードは、「日本私立大学協会憲章 私立大学版ガバナンス・コード
<第1版>」に基づき作成しています。

新潟医療福祉大学 ガバナンス・コード<第1版>

第1章 私立大学の自主性・自律性（特色ある運営）の尊重

私立大学の存在意義は、建学の精神・理念にあり、それに基づく独特の学風・校風が自主性・自律性として尊重され、個性豊かな教育・研究を行う機関として発展してきました。

私立大学は、社会の発展と安定に不可欠な極めて厚い中間層の形成に大きく寄与してきました。また、私立大学は地域社会において高等教育へのアクセスの機会均等と知的基盤としての役割も果たしてきました。

今後とも、学校法人新潟総合学園新潟医療福祉大学（以下、「本学」という。）は、建学の精神に基づく、私立大学としての使命を果たしていくために、また、教職員はその使命を具現する存在であるために、日本私立大学協会の制定した「私立大学版ガバナンス・コード」を規範にし、適切なガバナンスを確保して、時代の変化に対応した大学づくりを進めていきます。

また、中期的な計画を策定・公表し、学生をはじめ様々なステークホルダーに対し、私立大学の教育、研究および社会貢献の機能を最大化し、価値の向上を目指していきます。

1-1 建学の精神

(1) 建学の精神・理念

本学の学則第1条において示された建学の精神は「本学は、教育基本法および学校教育法の精神に基づき、広く保健・医療・福祉に関する専門の学芸を教授研究し、豊かな人間性と高潔な倫理性を涵養し、保健・医療・福祉に関する指導的人材の養成を目指し、もって学術文化の発展に寄与し、人類の福祉の向上に貢献することを目的とする」です。2005年度からはその対象を保健・医療・福祉・スポーツ分野としています。

(2) 建学の精神・理念に基づく人材像

建学の精神に基づく理念および育成すべき人材像は次のとおりです。

「優れたQOLサポーターの育成」

QOLサポーターとは、あらゆる人のQOL (Quality of Life) を支える人材を指しています。本学では、優れたQOLサポーターに求められる5つの要件として、「科学的知識と技術を活用する力 (Science & Art)」「チームワークとリーダーシップ (Teamwork & Leadership)」「対象者を支援する力 (Empowerment)」「問題を解決する力 (Problem-solving)」、「自己実現意欲 (Self-realization)」を定め、それぞれの頭文字をとってSTEPSと表現しています。したがって、保健・医療・福祉・スポーツ分野に関する確かな専門性に加え、総合的に他の専門分野をも横断的・融合的に理解し、研究し、実践し、教育できる人材の育成を本学の使命としています。

1-2 教育と研究の目的

(1) 建学の精神・理念に基づく教育目的等

① 本学の教育目的および研究目的

本学は、教育基本法および学校教育法の精神に基づき、広く保健・医療・福祉に関する専門の学芸を教授研究し、豊かな人間性と高潔な倫理性を涵養し、保健・医療・福祉に関する指導的人材の養成を目指し、もって学術文化の発展に寄与し、人類の福祉の向上に貢献する。

② リハビリテーション学部の教育目的および研究目的

リハビリテーション学部は、幅広い教養科目とリハビリテーションに関連する専門基礎科目や専門専攻科目を通して、リハビリテーションの基盤を形成する理学療法学、作業療法学、言語聴覚療法学および義肢装具自立支援学に関する知識・技能や、科学的思考力、医療従事者としての倫理観と責任感、および人間性を涵養する。さらに、様々な問題点を発見し、論理的に解決する力を養うとともに、変化する社会のニーズや科学の進歩に関心をもち続け、生涯を通じて探求心を礎に自らを高めることができる精神を醸成する。これにより、保健・医療・福祉を主とした多職種間で調和のとれたコミュニケーションを図ることができる「優れた QOL サポーター」を育成する。

③ 医療技術学部の教育目的および研究目的

医療技術学部は、多くの学問領域から構成されている特徴を生かした連携教育や工夫されたカリキュラムなどを通して、科学的思考力とともに専門的な知識・技術、幅広い教養を育み、高い倫理観や豊かな人間性を養うとともに、変化する社会のニーズや科学の進歩に関心をもち続け、生涯を通じて探求心を礎に自らを高めることができるよう支援する。これにより、保健・医療・福祉を主とした多職種間で調和のとれたコミュニケーションを図ることができる「優れた QOL サポーター」を育成する。

④ 健康科学部の教育目的および研究目的

健康科学部は、幅広い教養と豊かな人間性を育み、専門分野の深い理解をもとに健康課題についての的確な判断力と問題解決能力を醸成する。また、高い技能とコミュニケーション能力とともに、専門的職業人としての使命感と責任感を培い、社会や科学の発展に関心をもち、生涯を通じて探求心を礎に主体的に学習する人材を育成する。これらにより、人の健康づくりを担う「優れた QOL サポーター」の育成を目指す。

⑤ 看護学部の教育目的および研究目的

看護学部は、人の多様な価値観を尊重し、人権擁護に基づく行動がとれる倫理的能力や看護者として必要な幅広い教養と豊かな人間性を培い、専門的知識と方法論を用いて課題を解決していくための判断力と問題解決能力を育成する。さらに、保健医療福祉における看護の役割を果たし、連携医療を担える能力を育成するとともに、看護の動向や社会の変化に関心をもち続け、地域・国際社会におけるヒューマンケアリングに基づいた看護を探求しようとする使命感と責任感を涵養する。

⑥ 社会福祉学部の教育目的および研究目的

社会福祉学部は、福祉社会の構築に必要な専門的な知識と人間を理解するための幅広い教養、専門的な知識に根ざした思考力と判断力を養成する。また、福祉社会の構成要素の動向に関心を持ち、福祉増進のための課題をとらえる意欲と、人間の多様な生き方や個性、自己表現の方法を多角的に理解し、人権と人格を尊重する態度を涵養する。さらに、社会福祉専門職としての問題解決能力と、対象となる個人や集団と良好な関係を築き、同僚や関連職種・機関と連携できる能力を育成する。

⑦ 医療経営管理学部の教育目的および研究目的

医療経営管理学部は、医療・経営・情報に関する専門的知識を有し、医療情報管理分野の専門的知識に根ざした思考力・判断力を涵養する。また、社会の変化、医療情報技術の進歩に関心を持ち続け生涯を通じて主体的に学び続ける姿勢を養成する。さらに、社会人の一員として、専門的職業人として、礼節・使命感・責任感を持ち対象者・同僚・関連職種と良好なコミュニケーションがとれる能力と問題解決能力を有する「優れたQOLサポーター」を育成する。

⑧ 大学院の教育目的および研究目的

本学大学院は、教育基本法および学校教育法の精神に基づき、広く保健・医療・福祉・スポーツに関する学術の理論および応用を教授研究し、豊かな人間性と高潔な倫理性を涵養して保健・医療・福祉・スポーツに関する指導的人材の養成を目指し、もって学術文化の発展に寄与するとともに、人類の福祉の向上に貢献する。

(2) 中期的（原則として5年以上）な計画の策定と実現に必要な取組みについて

- ① 安定した経営を行うために、認証評価を踏まえるとともに予測される学内外の環境変化を基に適切な中期計画を検討・策定をします。
- ② 中期的な計画の進捗状況、財務状況については、理事会または学内の自己点検・評価委員会で進捗状況を管理把握し、その結果を内外に公表するなど、透明性ある法人運営・大学運営に努めています。
- ③ 財政的な裏付けのある中期的な計画の実現のために、外部理事を含めた経営陣全体や、経営陣を支えるスタッフの経営能力を高めていきます。
- ④ 改革および教職協働の推進のため、事務職員の役割を一層重視し人材の確保・能力向上に努めます。
- ⑤ 経営陣と教職員が中期的な計画を共有し、教職員からも改革の実現に際して積極的な提案を受けるなど法人全体の取組みを徹底します。

⑥ 中期計画の内容項目

本学は将来計画を策定し、長期ビジョンを明示します。長期ビジョンを実現するために以下を重点項目として設定し、それぞれの長期目標ならびに中期目標・中期計画を立案します。

- ア 大学拡充計画の推進
- イ 教育の質保証
- ウ 学生支援の充実

- エ 研究機能の強化
- オ 社会連携の強化
- カ 国際交流の推進
- キ 大学スポーツ振興の推進
- ク 学生募集の強化
- ケ 組織マネジメント
- コ 内部質保証

(3) 私立大学の社会的責任等

- ① 自主的に運営基盤の強化を図るとともに、本学の教育の質の向上および経営の透明性の確保を図るよう努めます。
- ② 学生を最優先に考え、文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団、教職員、学生父母、卒業生、地域社会構成員等のステークホルダーとの関係を保ち、公共性・地域貢献等を念頭に学校法人経営を進めます。
- ③ 私立大学の目的達成のために、多様性への対応が不可欠との認識に立ち、男女共同参画社会への対応や、障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針（平成 27 年 2 月 24 日閣議決定）をはじめ、多様性への対応を実施します。

第 2 章 安定性・継続性（学校法人運営の基本）

私立大学は、社会から、教育・研究および成果の社会への還元という公的使命を負託されており、社会に対して説明責任を負っています。従って、その設置者である学校法人は、経営を強化しその安定性と継続性を図り、私立大学の価値の向上を実現し、その役割・責務を適切に果たします。学校法人は、このような役割・責務を果たすため、自律的なガバナンスに関する基本的な考え方および仕組みを構築します。

2-1 理事会

(1) 理事会の役割

① 意思決定の議決機関としての役割

ア 理事会は、学校法人の経営強化を念頭におき業務を決し、理事の職務執行を監督します。

② 理事会の議決事項の明確化等

ア 理事会において議決された事項は、議事録に記録し、保管します。

イ 理事会へ業務執行者から適切な報告がなされるよう留意します。

③ 理事および大学運営責任者の業務執行の監督

ア 理事会は、理事および設置大学の運営責任者（学長、副学長および学部長等）に対する実効性の高い監督を行うことを主要な役割・責務の一つと捉え、適切に大学の業務等の評価を行い、その評価を業務改善に活かします。

イ 理事会は、適時かつ正確な情報共有が行われるよう監督を行うとともに、内部統

制やリスク管理体制を適切に整備します。

④ 学長への権限委任

ア 学長が任務を果たすことができるようにするために、校務に関する権限を学長に委任しています。

イ 学長が副学長を置くなど、各々担当事務を分担させ、管理する体制としています。

ウ 各々の所掌する校務および所属教職員の範囲については、可能な限り規程整備等による可視化を図ります。

⑤ 実効性のある開催

ア 理事会は、年間の開催計画を策定し、予想される審議事項については事前に決定して全理事で共有します。

イ 審議に必要な時間は十分に確保します。

⑥ 役員（理事・監事）は、(ア)その任務を怠り、学校法人に損害を与えた場合、(イ)その職務を行う際に悪意又は重大な過失により第三者に損害を与えた場合、当該役員は、これを賠償する責任を負います。

⑦ 役員（理事・監事）が学校法人又は第三者に生じた損害を賠償する責任を負う場合において、他の役員も当該損害を賠償する責任を負うときは、これらの者は連帯して責任を負います。

⑧ 役員（理事・監事）の学校法人に対する責任が加重とならないよう損害賠償責任の減免の規定を整備します。

⑨ 理事会の議事について特別の利害関係を有する理事は、議決に加わるできません。

2-2 理事

(1) 理事の責務（役割・職務・監督責任）の明確化

① 理事長は、学校法人を代表し、その業務を総理します。

② 理事長を補佐する理事として、副理事長および常務理事を置き、各々の役割のほか、理事長の代理権限順位も明確に定めます。

③ 理事長および理事の解任については、寄附行為に明確に定めます。

④ 理事は、法令および寄附行為を遵守し、学校法人のため忠実にその職務を行います。

⑤ 理事は、善管注意義務および第三者に対する賠償責任義務を負います。

⑥ 理事は、学校法人に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を発見した場合は、これを理事長および監事に報告します。

⑦ 学校法人と理事との利益が相反する取引を行うときには、理事会において当該取引について事実を開示し、承認を受ける必要があります。

なお、特別の利害関係を有する理事は、議決に加わるできません。

(2) 学内理事の役割

① 教職員である理事は、知識・経験・能力を活かし、教育・研究、経営面について、

大学の持続的な成長と中長期的な安定経営のため適切な業務執行を推進します。

- ② 理事となる教職員は、教職員としての業務量などを考慮しつつ、理事としての業務を遂行します。

(3) 外部理事の役割

- ① 複数名の外部理事（私立学校法第38条第5項に該当する理事）を選任します。
- ② 外部理事は、学校法人の経営力・マネジメントの強化のため、理事会において様々な視点から意見を述べ、理事会の議論の活発化に大きく寄与し、理事としての業務を遂行します。
- ③ 外部理事には、審議事項に関する情報について理事会開催の事前・事後のサポートを十分に行います。

(4) 理事への研修機会の提供

全理事に対し、研修機会を提供します。

2-3 監事

(1) 監事の責務（役割・職務範囲）について

- ① 監事は、善管注意義務および第三者に対する賠償責任義務を負います。
- ② 監事は、その責務を果たすため、理事会に出席するとともに、その他の重要と認められる会議に出席することができます。
- ③ 監事は、法人の業務、財産の状況、理事の業務執行の状況を監査します。
- ④ 監事は、法人の業務若しくは財産又は理事の業務執行に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを文部科学大臣に報告し、又は理事会および評議員会に報告するものとします。
- ⑤ 監事は、理事がこの法人の目的の範囲外の行為その他法令若しくは寄附行為に違反する行為をし、又はこれらの行為をするおそれがある場合において、当該行為によってこの法人に著しい損害が生ずるおそれがあるときは、当該理事に対し、当該行為をやめることを請求することができます。

(2) 監事の選任

- ① 監事の独立性を確保する観点を重視し、理事長は評議員会の同意を得て理事会の審議を経て、監事を選任します。
- ② 監事は2名置くこととします。
- ③ 監事の業務の継続性が保たれるよう、監事相互の就任・退任時期について十分考慮します。

(3) 監査計画

- ① 監事は、監査計画を定め、関係者に通知します。
- ② 監事は、監査計画に基づき監査を実施し、監査結果を具体的に記載した監査報告書を作成し、理事会および評議員会に報告し、これを公表します。

(4) 監事業務を支援するための体制整備

- ① 監事、公認会計士（および内部監査者の三者）がそれぞれ行った監査の結果について、意見を交換し監事監査の機能の充実を図ります。
- ② 監事に対し、研修機会を提供します。
- ③ 監事に対し、審議事項に関する情報について理事会開催の事前・事後のサポートを十分に行うための監事サポート体制を整えます。
- ④ その他、監事の業務を支援するための体制整備に努めます。

2-4 評議員会

(1) 諮問機関としての役割

次に掲げる事項について、理事長は、評議員会に対し、あらかじめ、評議員会の意見を聞きます。なお、諮問事項に関して特別の利害関係を有する評議員は、議決に加わることはできません。

- ① 予算、事業計画に関する事項
 - ② 中期的な計画の策定
 - ③ 借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時借入金を除く。）および重要な資産の処分に関する事項
 - ④ 役員報酬に関する基準の策定
 - ⑤ 寄附行為の変更
 - ⑥ 合併
 - ⑦ 私立学校法第50条第1項第1号（評議員会の議決を要する場合を除く。）および第3号に掲げる事由による解散
 - ⑧ 収益を目的とする事業に関する重要事項
 - ⑨ その他、法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの
- (2) 評議員から意見を引き出す議事運営方法の改善に努めます。
- (3) 評議員会は、学校法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができます。
- (4) 評議員会は、監事の選任に際し、理事長が評議員会の同意を得るための審議をします。その際、事前に理事長は当該監事候補者の資質や専門性について十分検討します。

2-5 評議員

(1) 評議員の選任

- ① 評議員の人数は、理事人数に対して十分な人数を選任します。
- ② 評議員となる者は、次に掲げる者としています。
 - ア 当該学校法人職員のうちから、理事会において推薦され、評議員会において選任した者
 - イ 当該学校法人の設置する学校を卒業した者で年齢二十五年以上の者のうちから、

理事会において選任した者

ウ 学識経験者のうちから、理事会において選任した者

③ 学校法人の業務若しくは財産状況又は役員の業務執行について、意見を述べ若しくは諮問等に答えるため、多くのステークホルダーから、広範かつ有益な意見具申ができる有識者を選出します。

④ 評議員の選任方法は、寄附行為に定める方法によります。

(2) 評議員への研修機会の提供と充実

① 評議員に対し評議員会に付議する事項について、評議員会開催の事前・事後のサポートを十分に行います。

② 評議員に対し、研修機会を提供します。

第3章 教学ガバナンス（権限・役割の明確化）

学長の任免は、学長選考規程に基づき「理事会の議を経て理事長が行う」としています。

また、学則第7条第3項において「学長は、本学の校務についての最終決定権を有する」と学長の権限を定めています。

私立学校法において「理事会は、学校法人の業務を決する」とありますが、理事会が、理事会の権限の一部を学長に委任していることを鑑みて、理事会および理事長は、大学の目的を達成するための各種政策の意思決定、副学長、学部長等の任命、教員採用等については、学長の意向が十分に反映されるように努めます。

3-1 学長

(1) 学長の責務（役割・職務範囲）

① 学長は、学則第1条に掲げる「本学は、教育基本法および学校教育法に基づき、広く保健・医療・福祉に関する専門の学芸を教授研究し、豊かな人間性と高潔な倫理性を涵養し、保健・医療・福祉に関する指導的人材の養成を目指し、もって学術文化の発展に寄与し、人類の福祉の向上に貢献することを目的とする」という目的を達成するため、リーダーシップを発揮し、大学教学運営を統括し、所属教職員を統督します。

② 学長は、理事会から委任された権限を行使します。

③ 学長は、所属教職員が、学長方針、中期的な計画、学校法人経営情報を十分理解できるよう、これらを積極的に周知し共有することに努めます。

(2) 学長補佐体制（副学長の役割）

① 大学に副学長を置くとしており、学則第7条第4項において「副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる」としています。

3-2 総務会・大学院委員会

(1) 総務会および大学院委員会の役割（学長と総務会および大学院委員会の関係）

大学および大学院の運営に関する全学的な重要事項を審議するために総務会および大学院委員会を設置しています。審議する事項については、学則第9条および大学院学則第10条第2項に定めています。

3-3 教授会・研究科委員会

(1) 教授会および研究科委員会の役割（学長と教授会および研究科委員会の関係）

大学および大学院の教育研究に関する重要事項を審議するために教授会および研究科委員会を設置しています。審議する事項については、学則第10条および大学院学則第12条に定めています。

ただし、学校教育法第93条に定められているように、教授会および研究科委員会は、定められた事項について学長が決定を行うに当たり意見を述べる機関であり、学長の最終判断が教授会および研究科委員会の審議結果に拘束されるものではありません。

第4章 公共性・信頼性（ステークホルダーとの関係）

私立大学は、常に時代の変化に対応した高い公共性と信頼性が確保されなければなりません。建学の精神・理念に基づき自律的に教育事業を担う私立大学は、こうした高い公共性と信頼性のもとでの社会的責任を十二分に果たして行かねばなりません。ステークホルダー（学生・保護者、同窓生、教職員等）はもとより、広く社会から信頼され、支えられるに足る存在であり続けるために、公共性と信頼性を担保する必要があります。

4-1 学生に対して

(1) 大学全体はもとより、学部・学科・研究科等においても、3つの方針（ポリシー）を明確にし、入学から卒業および修了に至る学びの道筋をより具体的に明確にします。

① 学部および専攻ごとの3つの方針（ポリシー）

ア 卒業および修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

イ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ウ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

② 自己点検・評価を実施し広く社会に公表するとともに、その結果に基づき学生の学修成果と進路実現にふさわしい教育の高度化、学修環境・内容等のさらなる整備・充実に取組みます。

③ ダイバーシティ・インクルージョン（多様性の受容）の理念を踏まえ、ハラスメント等の健全な学生生活を阻害する要因に対しては、学内外を問わず毅然かつ厳正に対処します。

4-2 教職員等に対して

(1) 教職協働

実効性ある中期的な計画の策定・実行・評価（PDCA サイクル）による大学価値向上を確

実に推進するため、教員と事務職員等は、教育研究活動等の組織的かつ効果的な管理・運営を図るため適切に分担・協力・連携を行い、教職協働体制を確保します。

(2) ユニバーシティ・ディベロップメント：UD

全構成員による、建学の精神・理念に基づく教育・研究活動等を通じて、私立大学の社会的価値の創造と最大化に向けた取組みを推進します。

① ボード・ディベロップメント：BD

ア 常勤理事は、寄附行為等関連規程および事業計画等に基づく責任担当事業領域・職務に係る PDCA を毎年度明示します。

イ 監事は毎年度策定する監査計画と監査報告書を理事会および評議員会に報告します。

② ファカルティ・ディベロップメント：FD

ア 3つの方針（ポリシー）の実質化と教育の質保証の取組みを推進するため、教員個々の教育・研究活動に係る PDCA を毎年度明示します。

イ 教員個々の教授能力と教育組織としての機能の高度化に向け、学内に FD 推進組織を整備し、年次計画に基づき取組みを推進します。

③ スタッフ・ディベロップメント：SD

ア 全ての教員・事務職員等はその専門性と資質の向上のための取組みを推進します。

イ SD 推進に係る基本方針と年次計画を定め、計画的な取組みを推進します。

ウ 教職協働に対応するため、事務職員等としての専門性、資質の高度化に向け、年次計画に基づき業務研修を行います。

4-3 社会に対して

(1) 認証評価および自己点検・評価

① 認証評価

平成 16（2004）年度から、全ての大学は、7 年以内ごとに文部科学大臣が認証する評価機関の評価を受けることが法律で義務付けられました。本学も評価機関の評価を受審し、評価結果を踏まえて自ら改善を図り、教育・研究水準の向上と改善に努めます。

② 自己点検および評価結果等を踏まえた改善・改革(PDCA サイクル)の実施

教育目標や組織目標の実現に向け、それらの目標の達成状況および各種課題の改善状況等に関する定期的な自己点検・評価を実施し、その結果を踏まえた改善・改革のための計画を策定し、実行します。

③ 学内外への情報公開

自己点検や改善・改革に係わる情報および保有する教育・研究をはじめとする各種情報資源を、刊行物やホームページ等を通じて積極的に公開することにより、学内外の関係者および社会に対する説明責任を果たします。

(2) 社会貢献・地域連携

- ① 資源を活用し、社会の発展と安定に貢献するため、教育・研究活動の多様な成果を社会に還元することに努めます。
- ② 産官学の組織的連携を強化し、「知の拠点」としての大学の役割を果たすとともに、産学、官学、産産等の結節点として機能します。
- ③ 地域の多様な社会人を受け入れるとともに、時代の要請に応じた生涯学習の場を広く提供します。
- ④ 大規模災害への対応として、日常的に地域社会と減災活動に取り組みます。
- ⑤ 環境問題を始めとする社会全体のサステナビリティを巡る課題について対応します。

4-4 危機管理および法令遵守

(1) 危機管理のための体制整備

- ① 危機管理体制の整備と危機管理マニュアルの整備に取り組みます。
 - ア 大規模災害
 - イ 不祥事（ハラスメント、公的研究費不正使用等）
- ② 災害防止、不祥事防止対策に取り組みます。
 - ア 学生等の安全安心対策
 - イ 減災・防災対策
 - ウ ハラスメント防止対策
 - エ 情報セキュリティ対策
 - オ その他のリスク防止対策
- ③ 事業継続計画の策定に取り組みます。

(2) 法令遵守のための体制整備

- ① 全ての教育・研究活動、業務に関し、法令、寄附行為、学則および諸規程（以下、法令等という。）を遵守するよう組織的に取り組みます。
- ② 法令等に違反する行為又はそのおそれがある行為に関する教職員等からの通報・相談（公益通報）を受け付ける窓口を常時開設します。また、窓口に通報又は相談したことを理由として、不利益な取り扱いが行われないように通報者の保護を図ります。

第5章 透明性の確保（情報公開）

私立大学は、日本における高等教育の大きな担い手であり、公共性が高く、社会に質の高い重要な人材を提供する機関であることを踏まえ、法人運営・教育研究活動等について、透明性の確保にさらに努めます。

私立大学は、多くのステークホルダーから支持されることが必要ですが、大学の目的は教育・研究・社会貢献等多岐にわたっており、それぞれに異なるステークホルダーが存在することを踏まえた上で、法人運営・教育研究活動の透明性を確保します。

私立大学は、高等教育を担う公共性の高い機関であることから、企業のように、利益を追求する「株主への説明責任である」との位置付けとは異なり、法人運営・教育研究活動の公

共性・適正性を確保し、透明性を高める観点からステークホルダーへの説明責任を果たします。

5-1 情報公開の充実

(1) 法令上の情報公表

公表すべき事項は学校教育法施行規則（第172条第2項）、私立学校法等の法令および日本私立大学団体連合会のガイドライン等によって指定若しくは一定程度共通化されていますが、公開するとした情報については主体的に情報発信していきます。

① 教育・研究に資する情報公表

- ア 大学の教育研究上の目的
- イ 卒業および修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
- ウ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
- エ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）
- オ 教育研究上の基本組織
- カ 教員組織、教員の数ならびに各教員が有する学位および業績
- キ 入学者の数、収容定員、在学学生数、卒業又は修了者数、進学者数、就職者数、その他の進学や就職等の状況
- ク 授業科目、授業方法および内容ならびに年間の授業計画
- ケ 学修成果に係る評価および卒業又は修了認定に当たっての基準
- コ 校地、校舎等の施設および設備その他の学生の教育研究環境
- サ 授業料、入学料等の大学が徴収する費用
- シ 大学が行う学生の修学、進路選択および心身の健康等に係る支援
- ス 学生が修得すべき知識および能力

② 学校法人に関する情報公表

- ア 財産目録・貸借対照表・収支計算書
- イ 寄附行為
- ウ 監事の監査報告書
- エ 役員等名簿（個人の住所に係る記載の部分を除く）
- オ 役員報酬に関する基準
- カ 事業報告書

1) 法人の概要

- ・学校法人としての所在地・連絡先
- ・理事・監事・評議員の氏名
- ・理事・監事の略歴（所属機関や職業等）

2) 事業の概要

- ・主な事業の目的・計画およびその進捗状況

3) 財務の概要

・収支および財産（財産目録、貸借対照表、収支計算書）の状況（経年比較等を活用）

・経営改善に取り組んでいれば、その改善策

（２）自主的な情報公開

法律上公開が定められていない情報についても、積極的に自らの判断により努めて最大限公開します。事例としては次のような項目があります。

① 教育・研究に資する情報公開

ア 海外の協定校および海外派遣学生者数

イ 大学間連携

ウ 地域連携および産官学連携

② 学校法人に関する情報公開

ア 中期的な計画

イ 学校法人が相当割合を出資する会社に関する情報

（３）情報公開の工夫等

① 上記（１）②および（２）②の学校法人に関する情報については、Web 公開に加え、各事務所に備え置き、請求があれば閲覧に供します。

② 公開方法は、インターネットを使った Web 公開とともに、閲覧者が多岐にわたることを考慮し、「大学ポートレート」を活用するほか、学校要覧、入学案内、広報誌、各種パンフレット等の媒体も活用します。

③ 公開に当たっては、分かりやすい説明を付けるほか、説明方法も常に工夫します。

以上